

玉の舌の乱

The war of "Jinshin"
Toursround historical sites
Guide Map

史跡めぐり

玉倉部周辺地図

玉倉部大橋 d
城山 308m
城山入口
黒血川
東海道新幹線

玉倉部周辺のルート TOTAL: 約3時間35分

16 黒血川	約26分	城山入口
城山入口	約30分(往復)	b 城山山頂
城山入口	約35分	c 玉倉部の清水
c 玉倉部の清水	約60分	d 玉倉部大橋
d 玉倉部大橋	約64分	1 不破関資料館

※時間はおおよその数値です。 ※表記の時間は徒歩での移動のみで、見学時間は含まれません。

地図記号一覧

00 不破関関連史跡	推奨ルート
00 壬申の乱関連史跡	玉倉部周辺ルート
a 玉倉部邑関連史跡	新幹線
T ハイキング標識	J R 線
P 駐車場	() 橋
トイレ	歩道橋
神社	徒歩のみ
寺院	国道番号
病院・医療施設	県道番号
学校・教育施設	信号機
史跡・名所	GS ガソリンスタンド

和藪周辺地図

至玉倉部大橋
至玉
至藤下
至米原
至岐阜

史跡めぐり推奨ルート TOTAL: 約1時間40分

9 鍛冶工房跡	約14分	1 不破関資料館	約1分
8 東北角の土塁跡	約3分	2 不破関眺望地	約3分
7 北限の土塁跡	約9分	3 西城門跡・戸佐々神社	約2分
6 東城門跡	約3分	4 不破関跡・不破関守跡	約3分
5 兜掛石・沓脱石	約3分	5 不破関眺望地	約3分
4 不破関庁舎跡	約3分	6 東城門跡	約3分
3 西城門跡・戸佐々神社	約2分	7 北限の土塁跡	約9分
2 不破関眺望地	約3分	8 東北角の土塁跡	約3分
1 不破関資料館	約1分	9 鍛冶工房跡	約14分
10 南限の土塁跡	約6分	11 井上神社	約5分
11 井上神社	約5分	12 藤下の若宮八幡神社	約13分
12 藤下の若宮八幡神社	約13分	13 関の藤川(藤古川)	約3分
13 関の藤川(藤古川)	約3分	14 矢尻の井	約3分
14 矢尻の井	約3分	15 自害峯の三本杉	約4分
15 自害峯の三本杉	約4分	16 黒血川	約17分
16 黒血川	約17分	1 不破関資料館	約1分

※時間はおおよその数値です。 ※表記の時間は徒歩での移動のみで、見学時間は含まれません。

玉倉部周辺地図

玉倉部大橋
関ヶ原鍾乳洞
玉倉部の清水
エコミュージアム関ヶ原
胡麻の郷
関ヶ原ウオーランド
関ヶ原町役場
関ヶ原駅前観光交流館
セブンイレブン
関ヶ原IC
名神高速道路

広域地図

関ヶ原バイパス
野上行宮跡
桃配山
桃配山周辺地図

レンタサイクル

少し離れた場所へも、レンタサイクルを使えば関ヶ原の空気を感じながら巡ることが出来ます。
(お問い合わせ)

■ 関ヶ原駅前観光交流館
岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原598-4
TEL 0584-43-1100
駅前観光交流館のみWEB予約可能

■ 岐阜関ヶ原古戦場記念館 [広域観光情報コーナー(1F)]
岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原894-55
TEL 0584-41-0915

史跡めぐり推奨ルート TOTAL: 約1時間40分

9 鍛冶工房跡	約14分	1 不破関資料館	約1分
8 東北角の土塁跡	約3分	2 不破関眺望地	約3分
7 北限の土塁跡	約9分	3 西城門跡・戸佐々神社	約2分
6 東城門跡	約3分	4 不破関跡・不破関守跡	約3分
5 兜掛石・沓脱石	約3分	5 不破関眺望地	約3分
4 不破関庁舎跡	約3分	6 東城門跡	約3分
3 西城門跡・戸佐々神社	約2分	7 北限の土塁跡	約9分
2 不破関眺望地	約3分	8 東北角の土塁跡	約3分
1 不破関資料館	約1分	9 鍛冶工房跡	約14分
10 南限の土塁跡	約6分	11 井上神社	約5分
11 井上神社	約5分	12 藤下の若宮八幡神社	約13分
12 藤下の若宮八幡神社	約13分	13 関の藤川(藤古川)	約3分
13 関の藤川(藤古川)	約3分	14 矢尻の井	約3分
14 矢尻の井	約3分	15 自害峯の三本杉	約4分
15 自害峯の三本杉	約4分	16 黒血川	約17分
16 黒血川	約17分	1 不破関資料館	約1分

※時間はおおよその数値です。 ※表記の時間は徒歩での移動のみで、見学時間は含まれません。

桃配山周辺地図

大高
関ヶ原バイパス
中山道松並木
野上行宮跡
桃配山
桃配運動公園

歴史民俗学習館	桃配山	約20分
桃配山	中山道松並木	約12分
歴史民俗学習館	不破関資料館	約16分
不破関資料館	玉倉部の清水	約80分
玉倉部大橋	不破関資料館	約80分

美濃不破関

律令制下の重要な関所「三関」のひとつ「不破関」が担っていた役割とは…。

壬申の乱で勝利をおさめた大海人皇子が天武天皇となり、不破道に関所を設置。西国と東国の要衝である不破を抑え、戦況を有利に進めることができたことから、不破道の重要性、危険性を感じ関を置いたといわれています。東山道の不破関(ふわのせき)は、東海道の伊勢鈴鹿関(すずかのせき)、北陸道の越前愛発関(あらかのせき)とともに大宝令(701年制定)に定められた「三関」のひとつでした。不破関には美濃国府に勤務する関司(城主)が兵士とともに常駐し国家の非常事態に備える一方、通行する人々の検査をする警察的機能も果たしていました。789年、三関は突如として廃止。その維持費に大きな負担がかかっており、停廃せざるを得なかったといわれています。その後、平安時代には天皇の崩御や重大事件の際には、固関使が派遣されました。また、鎌倉時代には東山道を通る人から、関銭を徴収するようになりました。不破関の規模は不明ですが、中世の陶器、土師質土器や中国銭などが発掘調査で見つかっており、相当大きな規模と施設を持っていたと想像できます。



1 不破関資料館

岐阜県不破郡関ヶ原町大字松尾2-1-1

開館時間：9:00～16:30
(11～3月は～16:00)
入館料：大人110円 / 小人 無料
(20名以上 / 大人70円 / 小人 無料)
休館日：月曜・祝翌日・12/29～1/3
お問い合わせ：0584-43-2611



昭和49年～52年にかけて実施した発掘調査の出土品を中心に、土器類や丸瓦、和同開珎などを展示。壬申の乱について解説したビデオの視聴コーナーや不破関を復元したジオラマもあり、ここで学習してから関連史跡を巡ると、より壬申の乱や不破関を知ることができます。

発美濃師三千人得塞不破道
天皇於茲行宮興野上而居焉
戊子天皇往於和麩 檢校軍事而還
己丑天皇往和麩 命高市皇子號令軍衆
近江放精兵 忽衝玉倉部邑

日本書紀卷第二十八より抜粋

日本書紀に記された関ヶ原の歴史

壬申の乱は日本書紀卷第二十八(壬申紀)の解釈によるもので、不破関跡周辺を「和麩(わづみ)」と呼んでいたことや、野上、不破道、玉倉部邑の記述も日本書紀に残されています。歴史的観点からみても、関ヶ原が重要な場所であることが見て取れます。



2 不破関眺望地



a 黒血川



b 城山



c 玉倉部の清水



d 玉倉部大橋

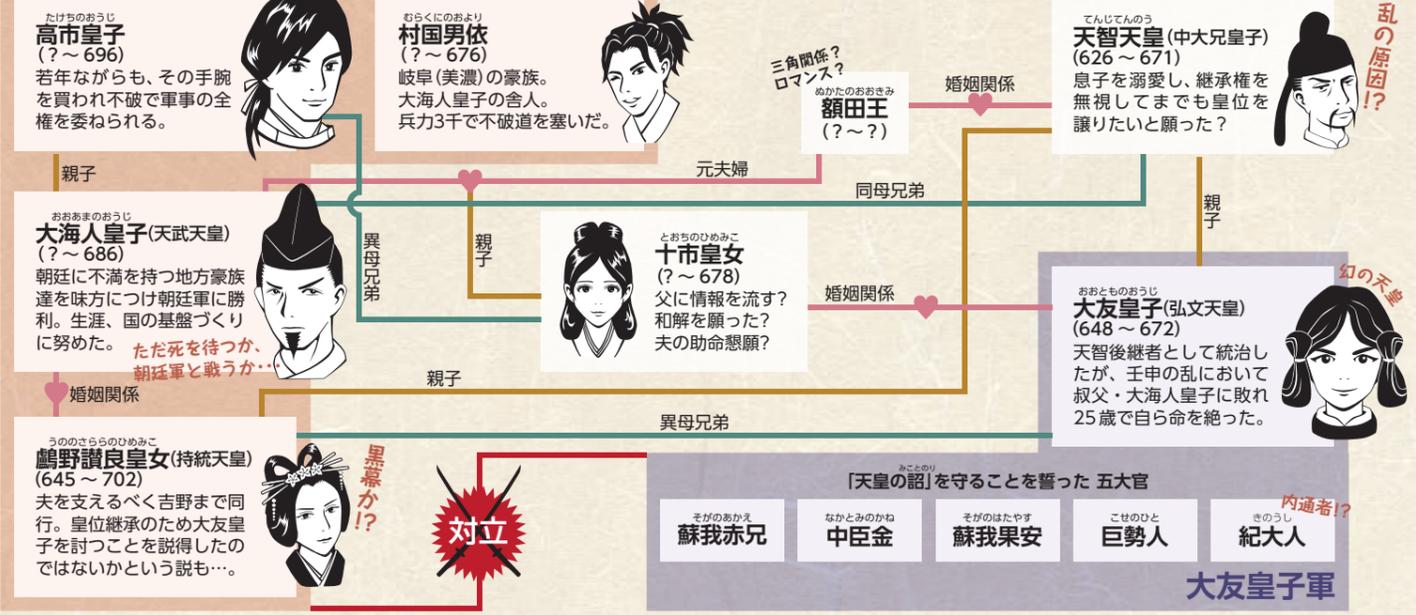
玉倉部邑コースへの道しるべ

壬申の乱の舞台となった玉倉部邑は、現在の玉地区の辺りだと考えられています。まず黒血川沿いに東海自然歩道を上っていくと、川幅が狭くなり源流へと近づきます。そして玉倉部の清水、玉倉部大橋へと、乱の戦況を想像しながら歩いてみてください。

壬申の乱

672年、天智天皇の後継を巡って起きた“天下分け目の戦い”が壬申の乱です。当時の兄弟継承という慣習を無視し、近江朝廷の政権を握ったのは天智天皇の息子である大友皇子。これに対し天智天皇の弟・大海人皇子が反乱を起こしたといわれています。まず大海人皇子は村国男依らを美濃へ遣わし交通の要所である不破道を抑え東国を掌握。野上行宮へと進んだ皇子は軍を指揮し、関の藤川を挟んで大友軍と大海人軍が対立。7月1日には玉倉部邑で壮絶な戦いが繰り広げられました。7月22日に大津の瀬田橋の戦いで最終決戦が行われ、大海人軍が勝利。翌日、大友皇子は自害し、三本杉の下に眠っているとされています。

大海人皇子軍



不破関を今に伝える、重要な史跡



3 西城門跡・戸佐々神社

古くは不破関を鎮護する神として祀られた神社。不破関は藤古川を西限として利用し、自然の要害を巧みに使用したものでした。大木戸という地名も残っており、「西城門」があったとされています。



4 不破関跡・不破関守跡

古代律令制下の三関のひとつとして壬申の乱後に設けられたのが不破関です。789年に停廃されてからは関守が置かれませんでした。藤古川から大木戸坂を登りきった「関月亭」辺り一帯が、関守の屋敷跡です。



5 不破関庁舎跡

畑が広がるこの場所に不破関の中心建物があったとされています。関内の中央を東山道が通り、北側に瓦屋根の塀で囲まれた約1町(108m)四方の関庁が設けられ、各種倉庫が造られていました。



6 東城門跡

関の東端にあたるここにはかつて城門や楼が設けられており、兵士が守りを固めていました。日の出とともに開門し、日の入りとともに閉門。国家的な大事件が起きると全ての通行が停止されました。



5 兜掛石・沓脱石

大海人皇子が兜を外してかけた石とされる「兜掛石」は、木の下の祠に祀られています。また、西後方には同じく皇子が沓(くつ)を脱いだとき、足をかけたと言われる「沓脱石」もあります。



11 井上神社

大友皇子と大海人皇子が、藤古川を挟んで戦ったといわれています。この神社は天武天皇を祀っており、川の東側の松尾地区の村人が、大海人皇子を称え神社を建立したといえます。



12 藤下の若宮八幡神社

本社の創建は定かではなく、「若宮八幡社御縁記」によると1320年に弘文天皇を祀り、1404年・1500年に社殿修繕したとあります。本殿は檜皮葺きの桃山様式で、貴重な建造物です。



13 関の藤川(藤古川)

かつて関の藤川と呼ばれ、関所のそばを流れているところからその名がつけました。壬申の乱では川を挟んで東側に大海人軍、西側に大友軍が陣取り、激戦を繰り広げたと伝えられています。



7 北限の土塁跡

東西460mの規模で、現在の高さ約2m、基底部の幅約5～6mが確認できます。この後方の東北角は鬼門にあたり、北限と東限の土塁が交わり、土塁をまたいで望楼が建っていました。



8 東北角の土塁跡

不破関の東北角に位置し鬼門にあたる重要な地点で、現状では最もよく土塁の形態を留めています。ここで土師器甕に入った和同開珎が発見され、鎮壇がここで行われたと推定されています。



9 鍛冶工房跡

ここは関の東南角にあたる重要な地点です。土塁の内側からは炉壁や鉄片などが見つかっており、馬の蹄鉄や兵士のための兜や鎧を製作するための、鍛冶場があった場所だといわれています。



10 南限の土塁跡

今は茶畑が広がるのどかな場所に、大きな土塁が築かれていました。発掘調査によって南限の土塁跡も確認され、その製造法も明らかとなりました。南限の土塁の長さは東西112mを測ります。



14 矢尻の井

藤古川橋を西に渡った先の急坂を上りきる辺りの左手に、矢尻の井があります。大友皇子の兵士が水を求めて矢尻で掘ったものと伝えられており、その名残を僅かに留めています。



15 自害峯の三本杉

乱に破れ、25歳の若さで自害された大友皇子の頭をこの丘に葬り、そのしるしに杉を植えたといわれ、現在は3本の杉のうち2本が残されています。弘文天皇御陵候補地とされています。



16 黒血川

ここ山中藤下の地で両軍初の戦いが起きたといわれています。激戦で両軍の兵士の血が川底の岩石を黒く染めたことからこの名がついたと伝えられ、戦いの激しさを物語っています。



17 桃配山

大海人皇子が兵士に山桃を配って激励したことが名前の由来。大海関ヶ原合戦にて徳川家康が勝ちの験を担ぎ、最初の陣を構えた場所でもあります。

18 野上行宮跡

大海人皇子は野上行宮を興して、そこを本営としました。大海人皇子による大友皇子の首実検も、この地で行われたといわれています。